

□ ■ タイの農業機械市場の動向と将来の展望 ■ □

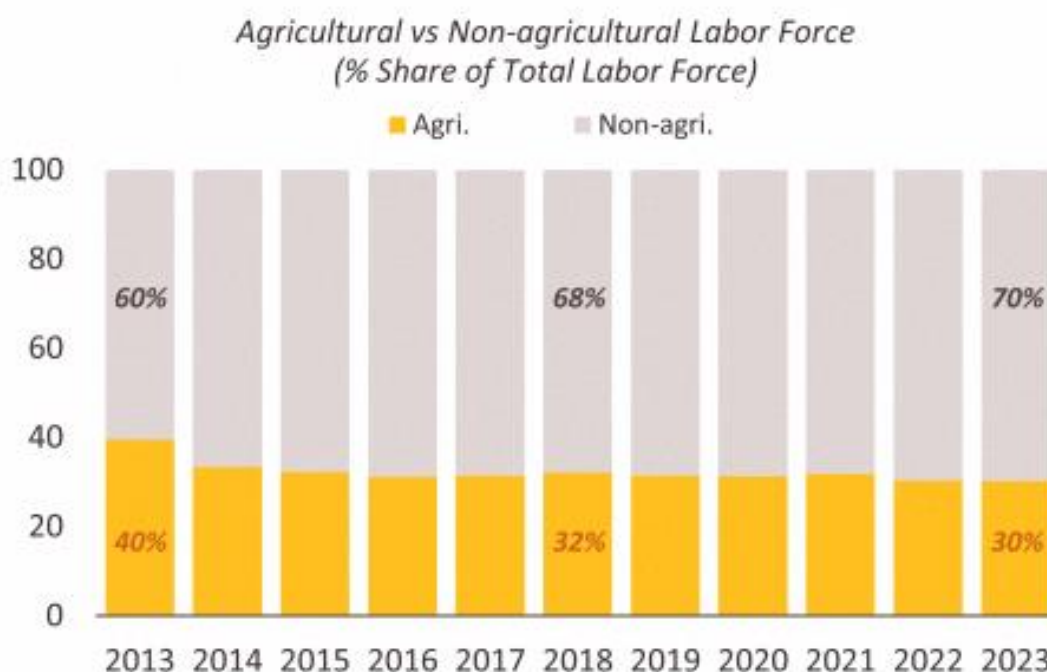


こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、グラフです。

タイの農業用地は非常に広大で、国土全体の 38.6%を占めています。これは日本の農地面積と比較すると約 4.3 倍です。国連食糧農業機関（FAO）の報告によると、タイの農地利用面積は 2021 年に 146.9 百万ライ（約 2,350 万ヘクタール）に達し、1961 年の 72.8 百万ライ（約 1,165 万ヘクタール）から年平均成長率（CAGR）1.2%で継続的に拡大しています。このことから、タイの農業用地面積は今後もさらに拡大していくことが予想されます。現在のタイの農業は、国内消費と輸出の両方のニーズに応える商業的な生産体制が整っています。一方で、特に若い世代の農業労働者の割合は減少傾向にあり（図 1）、これがタイにおける農業機械の需要増加を促す要因となっています。

しかしながら、アユタヤ銀行調査部の調査によると、タイの農業機械はまだまだ輸入に大きく依存しており、市場の 29%を輸入品が占めています。国内の農業機械産業は第 1 次国家経済社会開発計画（1963-

1966 年) の時代から発展してきました。2022 年にはタイの農業機械輸出能力の向上により、世界の農業機械輸出額の 1.5% (世界第 21 位) を占めるまでに成長しました。これは 2003 年の 0.4% から上昇しています。しかし、世界の主要輸出国と比較するとその割合はまだ低いです (図 2)。例えば、世界トップのドイツは世界全体の農業機械輸出額の 14.5% を占め、後ろには中国 (11.1%)、アメリカ (9.5%)、メキシコ (6.5%)、日本 (5.5%) が続きます。これらの国々はタイの主要な農業機械輸入元でもあります。また、世界の主要輸入国はアメリカで、農業機械輸入額は全体の 19.2%。次いでドイツ (8.5%)、フランス (5.0%)、メキシコ (4.9%)、中国 (4.4%) と続きます。タイは世界第 20 位の輸入国で、1.2% を占めます。



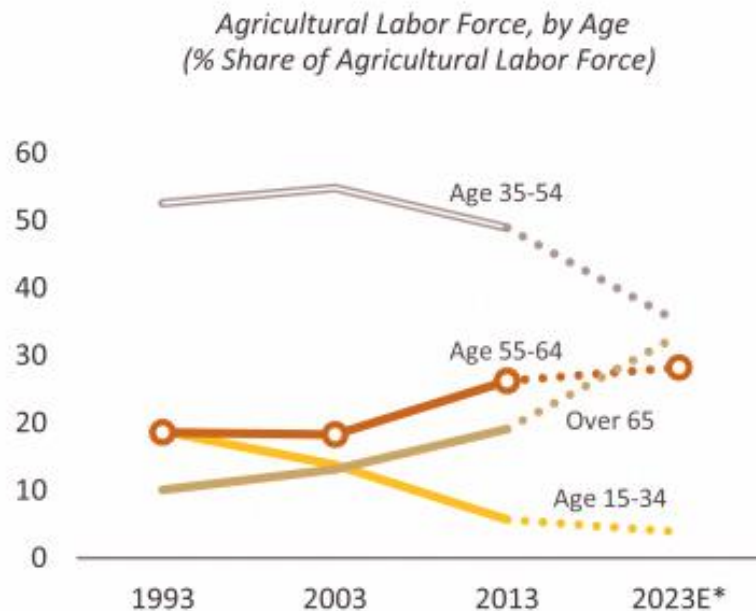
Source: Bank of Thailand (BOT), National Statistical Office (NSO)

Note: *Estimated by Krungsri Research

(図 1) タイの農業従事者 (黄) と非農業従事者 (グレー) の割合

出典: Krungsri Research

2013 年には農業従事者は労働者全体の 40% だったが、2023 年には 30% に減少している。



農業従事者のうち各年代が締める割合の推移

出典：Krungsri Research

グレーの折れ線が 35－54 歳、オレンジが 55－64 歳、茶色が 65 歳以上、黄色が 15－34 歳。2013 年以降、35－54 歳が減少し、55－64 歳及び 65 歳以上が増加しており、農業従事者が全体的に高年齢化してきていることが分かる。

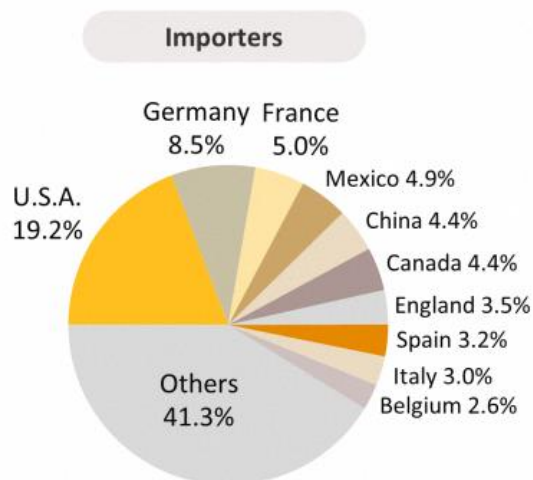


Source: Trademap

農業機械の主な輸出国

出典：Trademap, Krungsri Research

輸出国トップ3は、ドイツ、中国、アメリカ。日本は5位。



主な輸入国

輸入国トップ3は、アメリカ、ドイツ、フランス。

出典：Trademap, Krungsri Research

今回はタイにおける農業機械市場の現状と、これからのビジネスチャンスについてお話しいたします。

・タイの農業機械市場の概要

過去10年間（2013-2022年）のタイの農業機械市場は、主に輸入に依存し、年平均成長率（CAGR）は3.2%で推移してきました。

輸入状況

2022年の輸入額は474億バーツに達し、その内訳は以下の通りです

順位	部品種類	割合
1	メンテナンス機器および部品	50.2%
2	トラクターおよび部品	30.2%
3	収穫機および部品	9.8%

出典：国立統計局・アユタヤ銀行調査部の調査

主な輸入元

順位	国	割合
1	中国	32.4%

2	日本	22.0%
3	インド	8.8%
4	アメリカ	6.7%
5	イタリア	4.4%

出典：国立統計局・アユタヤ銀行調査部の調査

輸出状況

タイの農業機械輸出は年平均成長率（CAGR）8.0%で増加し、2022 年の輸出額は 408 億バーツとなりました。

主な輸出品目

順位	部品種類	割合
1	トラクターおよび部品	41.8%
2	メンテナンス機器および部品	32.2%
3	収穫機および部品	17.8%

出典：国立統計局・アユタヤ銀行調査部の調査

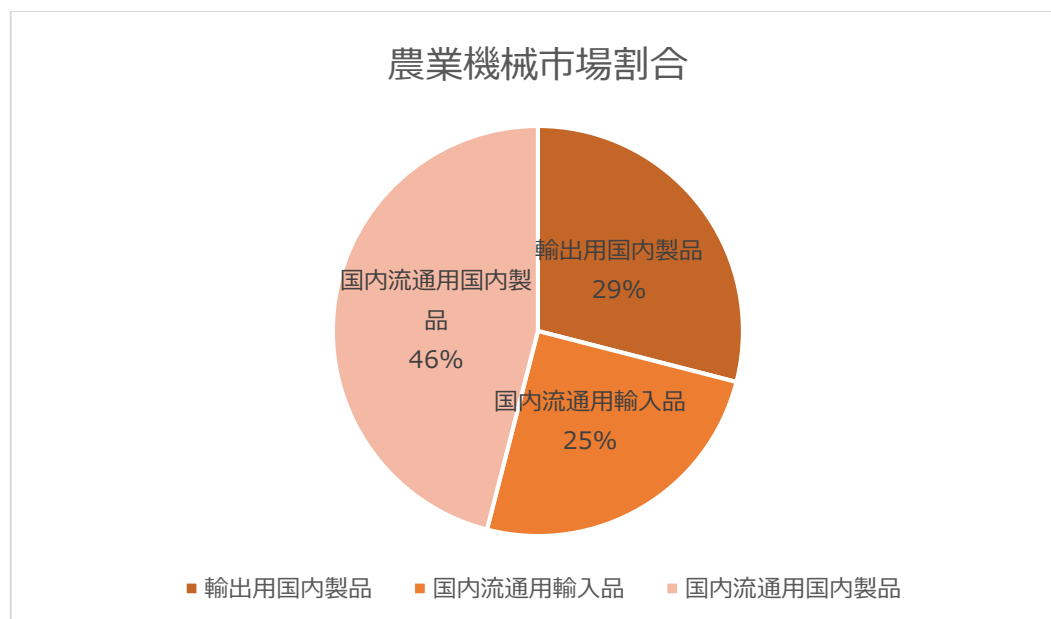
主な輸出先

順位	国	割合
1	CLMV 諸国	34.0%
2	アメリカ	21.6%
3	インド	8.8%
4	日本	6.7%
5	フィリピン	4.4%

※CLMV 諸国とはカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムという国

出典：国立統計局・アユタヤ銀行調査部の調査

2022 年のタイの農業機械市場の総額は 1,640 億バーツに達しました。このうち、輸入農業機械は 474 億バーツで、国内市場全体の 28.9%を占めています。一方、国内生産の機械は 1,166 億バーツで、全体の 71.1%を占めています。国内生産の内訳は、国内市場向けが 759 億バーツ（全体の 46.3%）、輸出向けが 408 億バーツ（24.9%）となっています。



出展：国家統計局（NSO）、機械情報ユニット（MIU）、NESCD の 2015 年産業連関表、銀行調査部の調査

2023 年の農業センサスによると、タイで最も普及している農業機械は稲作用の機械で、その多くは小規模農家が使用しています。農業機械の需要は高く、全農家の 71.3%が使用しています。最も使用されている機械の種類は以下の通りです：

1. 4 輪トラクター（農業機械使用者の 50.8%）
2. コンバイン（27.9%）
3. 歩行型トラクター（20.9%）
4. 灌漑ポンプ（15.4%）
5. 農薬散布機（12.3%）

地域別の農業機械使用率は、東北部が最も高く 80.0%、次いで北部（78.5%）、中部（68.8%）、南部（34.4%）となっています。

タイでの農業機械メーカー

タイでの農業機械メーカー・組立業者は、収入、規模、生産技術の開発レベルに基づいて 2 つのグループに分類できます：

- 大手メーカーグループ（クボタやヤンマー等）：

大量生産能力があり、国内外の販売網を持ち、全国的なアフターサービスを提供しています。このグループのメーカーは、多くの場合、外国企業との合併や最先端技術（ハイエンド技術）を導入しているため、輸入農業機械との競争力があり、輸出も可能です。一部のメーカーは部品、ディーゼルエンジンからトラクターや他の農業機械の組立まで行います。または、部品を輸入して国内で農業機械を組み立てています。さらに、一部の事業者は特に大型農業機械など、一部の国外のモデルを輸入販売することもあります。

- 中小メーカー・組立業者グループ（Chokchai Agricultural Machinery や Vichien Agricultural Machinery 等）：

エンジン/機械修理業から発展したケースが多く、主に完成エンジンや部品（輸入品と国産品）を使用し、各地域の農業条件や農家のニーズに合わせて組立、改造します。マーケティングは限定的で、主に自社の事業所周辺地域を対象にします。このグループの事業者は全国の各地域に多数分布しています。技術開発レベルは低級（ローエンド技術）から中級（ミドルエンド技術）までです。生産する農業機械の種類には、歩行型トラクター、耕耘機、灌漑ポンプと水中ポンプ、噴霧器、脱穀機、コンバイン、農業用トラック（E-tan）、乾燥機、小型精米機、サトウキビ収穫機など多岐にわたります。

- Chokchai Agricultural Machinery の HP：<https://www.chokchai.co.th>

- Vichien Agricultural Machinery の HP：<https://www.vichien.com>

タイの農業機械市場と主要プレイヤー

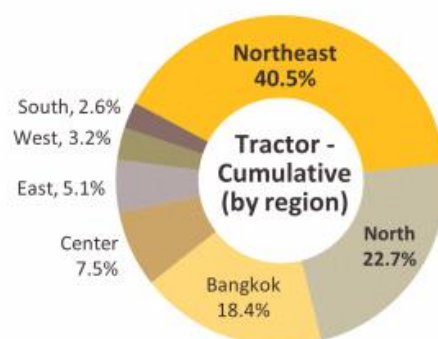
タイの農業機械市場において、市場シェアを占めている主要ブランドの多くは、国内に生産拠点を持つ海外ブランドです。例えば、クボタ（Kubota）やヤンマー（Yanmar）などが挙げられます。これは、国内のトラクター累積台数にも反映されており、2022 年末時点で、すべてのブランドを合わせた農業用トラクターが 63 万台、すべてのブランドを合わせた農業用車両が 11 万台となっています。

島根・ビジネスサポート・オフィス便り vol.125

一方、他のブランドは主に現地生産よりも輸入販売に注力しています。例えば、フォード（Ford）、ニューホランド（New Holland）、ジョンディア（John Deere）、イセキ（Iseki）、マッセイファーガソン（Massey Ferguson）などがあります。

国内での市場戦略について、大手メーカーや輸入業者は通常、農業機械の調達のためのリース/クレジットサービスを提供しています。これに加えて、アフターサービスやトラクターと併用する補完製品の販売も行っており、これらは農家の購買意欲を刺激する重要な戦略となっています。

農家は上記のようなメーカー提供のサービスの他、別の機関からも農業機械のリース、クレジットサービスを受けることができます。例えば、農業協同組合銀行や、非銀行金融機関（ノンバンク）グループ（農業協同組合やその他のリース会社など）があります。



地域ごとのトラクターの販売台数

最も販売台数が多いのは東北部（40.5%）、続いて北部（22.7%）、バンコク地域（18.4%）と続いている。

出典：国土交通省陸運局（DLT）・タイ王国・アユタヤ銀行調査部の調査

Region	Three most popular brands			Combined share in region
Northeast	Kubota	Ford	Yanmar	91.2%
North	Kubota	Ford	Yanmar	89.7%
Bangkok	Kubota	Yanmar	Iseki	83.1%
Center	Kubota	Ford	Yanmar	84.7%
East	Kubota	Ford	Caterpillar	82.4%
West	Kubota	Ford	New Holland	79.4%
South	Kubota	Caterpillar	Komatsu	75.1%

各地域で販売台数が多いメーカー

全地域で1位はクボタ、2位以下にフォード、ヤンマー、キャタピラー、イセキ、キャタピラー、ニューホランドが名を連ねている。

出典：国土交通省陸運局（DLT）・タイ王国・アユタヤ銀行調査部の調査

タイの農業機械産業の動向

アユタヤ銀行調査部のレポートによるとタイの農業機械産業の国内市場価値は継続的に成長し、2024-2026年の間に年平均 3.0-4.0%増加して 1,585～1,710 億バーツに達すると予想されています。これは 2023 年の-6.0%の縮小と比較しての成長です。以下が成長を支える要因です。

- **タイガラニーニャ現象に入ること：**

これにより降水量が増加し、気候が作物栽培により適したものになります。灌漑地域のダムの水量も増加し、農業部門（作物と畜産）および農業サービス部門に好影響を与え、農業機械の需要増加を促します。

- **主要作物の栽培面積拡大：**

世界市場の需要増加による価格上昇の恩恵を受け、食料安全保障作物、エネルギー作物、工業用作物の栽培が拡大します。特に米、キャッサバ、サトウキビ、アブラヤシ、ゴムなどの経済作物の収穫面積は、エルニーニョ現象の終息後に拡大すると予想されます。

- **構造的要因：**

高齢化社会、労働力不足、最低賃金の上昇に伴う労働・農業サービスコストの上昇、非農業従事者の農業分野への投資・従事への関心の増加などが、労働力代替のための機械需要を高めます。

- **政府支援：**

大規模農業促進プロジェクト、スマート農業（Smart Farming）、Young Smart Farmer プロジェクト、大気汚染問題削減のための収穫時の焼却禁止（Zero Burn）キャンペーン、BOI の投資促進プロジェクトなど。これらは BCG 経済（バイオ、循環型社会、環境分野の産業を中心に経発展を図る取組）に向けた農産業の発展を目指し、農業の形態を変え、最新技術や機械の導入を促進します。

- **世界市場における新しい製品基準、生産プロセス、消費行動：**

農産物の品質管理が世界市場や貿易相手国においてより厳格になっています。これらの国々が新たな厳しい規制を導入し、それがタイからの輸出に対する貿易障壁となる傾向が高まっています。一方、タイ国内の規制はそれほど厳格ではありませんが、輸出市場に合わせるため、タイの農業部門は精密農業技術の使用、システムティックなデータ記録によるトレーサビリティの確保、動物労働使用制限政策の影響による機械代替、環境に優しい消費やオーガニック製品の需要増加など、生産管理を

向上させる必要があります。これらの国際的な要因が、より多くの最新技術や農業機械のタイ国内での導入を促進します。

Figure 15: Forecast Growth in Thai Market for Agricultural Machinery



Source: Department of Business Development (DBD), calculated by Krungsri Research

農業機械市場の成長の推移

2023 年：1,541 億 6,000 万バーツ（実績）

2024 年：約 1,587 億 8,000 万～1,603 億 3,000 万バーツ（予測）

2025 年：約 1,635 億 4,000 万～1,667 億 4,000 万バーツ（予測）

2026 年：約 1,684 億 5,000 万～1,710 億バーツ（予測）

出典：商業開発局 (DBD) タイ王国・タイ王国・アユタヤ銀行調査部の調査

上記の要因により、新しい農業機械の購入支出が増加する傾向にあるため、農業機械メーカーや輸入業者にとってプラスの影響を与えると予想されます。さらに、農業サービス提供者は、拡大する需要に対応するため、特に最新技術を使用した農業機械への投資を増やしています。これは、生産効率と環境への配慮を重視する農業部門の管理をサポートするためです。

農業機械産業の今後のビジネスチャンス

アユタヤ銀行調査部のレポートによると、今後の農業機械産業は、以下の点に重点を置いて発展していくと予想されます：

1. 市場ニーズに適合した研究開発：

- 各地域の栽培条件に適した機械の開発
- 最新農業への移行を支援する高度技術の導入

2. 先端技術の統合：

- 精密技術（Precision Technology）
- GPS システム
- テレマティクスシステム
- センサーシステム
- 人工知能（AI）
- 機械学習（Machine Learning）

これらの技術により、トラクターの自動化と効率的な意思決定が可能になります。

3. 新しい機械技術の導入：

- ドローン
- ロボット

これらは管理コストの削減、時間短縮、生産効率の向上に貢献します。

4. 小規模農家向け機械の重要性：

- タイの農地所有の多くが小規模で、小規模農家によって保有されているため、地域市場は依然として以下の特性を持つ農業機械を重視しています：
 - 手頃な価格
 - 入手しやすさ
 - 修理の容易さ
 - 規模の経済性

しかし、高度な技術を使用した最新の農業機械が小規模農家市場に浸透するには制限があるかもしれません。これは、高いコストと複雑なメンテナンスが原因です。

この状況は、農業機械産業に以下のようなビジネスチャンスを提供する可能性があります：

1. 小規模農家向けの手頃な価格の高度技術機械の開発
2. 高度な技術を持つ機械のリースやシェアリングサービスの提供
3. 農業機械の操作とメンテナンスに関するトレーニングサービスの提供
4. 地域別の条件に特化したカスタマイズ可能な機械の開発
5. データ分析や精密農業などコンサルティングサービスの提供
6. 環境に配慮した持続可能な農業機械の開発
7. 農業機械のアフターサービスやメンテナンス事業の拡大

これらのチャンスを活かすことで、タイの農業機械産業は技術革新と市場ニーズのバランスを取りながら、持続的な成長を遂げることができるでしょう。

参考 : https://www.krungsri.com/getmedia/459e4aa2-86a0-48b5-b748-f3687cc5f666/IO_Agricultural_Machinery_240708_TH_EX.pdf.aspx

◆◆イベントレポート：JAPAN EXPO THAILAND 2025◆◆

アジア最大級の日本イベント「JAPAN EXPO THAILAND 2025」がバンコク中心部の複合商業施設セントラルワールドで2月7日～9日の3日間開催されました。今回は今年で10回目の開催となったJAPAN EXPO THAILAND 2025についてレポートします。

このJAPAN EXPO THAILANDは、セントラルワールドの屋外に5ゾーン、屋内に14ゾーンの合計19ものゾーンで構成され、それぞれのゾーンにトラベル、カルチャー、エンターテインメント、アート、留学、食とスイーツなど様々なテーマで展示が行われている点が特徴です。そのうちのひとつトラベルゾーンに島根県もブースを出展し、タイの人々に島根県の観光PRを行いました。



屋内会場の入り口



島根県の観光PRブース

また、屋内外に大小あわせて7つのステージが設置され、歌手やアイドル、バンドによるパフォーマンスの披露だけでなく、和太鼓、よさこい踊り、剣道、弓道、居合道、合気道、かるたなど日本の伝統的な文化の紹介も行われていました。



タイでも人気のアイドルグループ



日本の子供たちによる踊りのパフォーマンス

島根・ビジネスサポート・オフィス便り vol.125

飲食店エリアには日本から出展した飲食店も数多くあり、ラーメン、海鮮丼、鰻、握りずしといった本格的な日本食に加え、お好み焼き、たこ焼き、焼きそば、牛串、お団子など、お祭り気分が高まる屋台料理のお店が軒を連ねていました。日本料理はタイでも長年人気が高く、飲食店エリアは JAPAN EXPO THAILAND でも毎回とても人気のエリアで、今回も多くの人でにぎわっていました。



2 日目の 2 月 8 日には TAIYO ステージにて、松江城など島根県内で撮影されたタイドラマ「AI No KISETSU -SEASON of LOVE IN SHIMANE-」の制作発表が行われ、来場者に向けてドラマの紹介や歌の披露が行われました。タイではかつて千葉県成田山新勝寺や佐賀県などが人気ドラマの撮影地として観光客に人気になったことがあり、今後島根県へのタイ人観光客の増加が期待されます。このドラマはタイのネット配信サービス「Viu」で 5 月から放送される予定です。



島根を舞台にしたドラマ
「AI No KISETSU」の制作発表



画像引用：主催者 HP

JAPAN EXPO THAILAND 2025 の来場者は 3 日間で 75 万人（主催者発表）にのぼり、大変多くのタイ人が集まるイベントでした。JNTO（日本政府観光局）が発表した 2024 年の訪日外客数（推計）によると、タイ人の訪日観光客数は 114 万人を超えていて、前年比は +15%、国別ランキングでは韓国・中国・台湾・香港・米国に次いで第 6 位となっており、タイ人の相変わらずの日本人人気の高さを裏付けています。その「タイ人の日本人気の高さ」をさらに感じるイベントでした。

□ ■ タイでホエールウォッチング！ バンコク近郊の観光スポットをご紹介します ■ □



画像の出典：カプック（Kapook）というニュースやトラベルに関する情報を提供しているタイウェブメディアより

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、ニンです。

今回、私が一度は行ってみたいタイの観光地の一つを紹介したいと思います。あまりイメージがないかもしれませんが、ホエールウォッチングのできる観光スポットが、実はバンコクから車で約 1 時間半の距離にあります。今回は、バンコクから日帰り旅でクジラを見られる観光スポットをご紹介します。

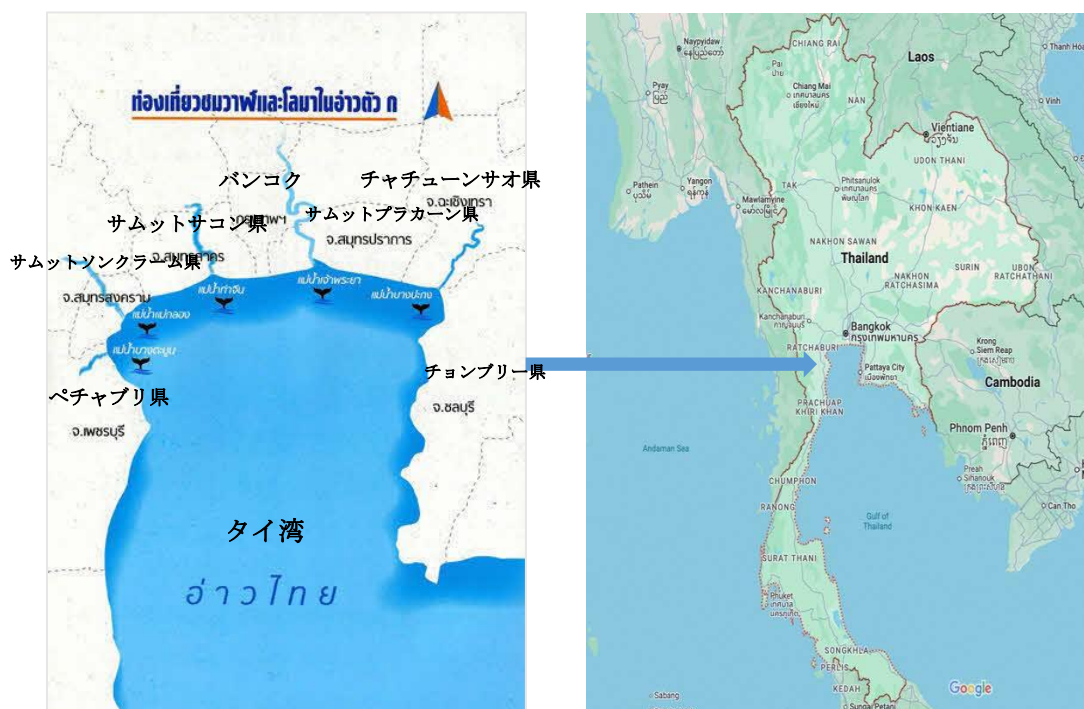
タイのクジラ

タイでは、アンダマン海（インド洋の一部で、ベンガル湾の南東に位置する海）とタイ湾（太平洋南シナ海の最西部にある湾）にニタリクジラ（Bryde's whale）という種のクジラが生息しています。アンダマン海であれば、タイ南部のパンガー県やプーケット県で見ることができます。また、タイ湾では、東部のチョンブリー県や、タイ中部のサムットサーコーン県、サムットソンクラーム県、南部のペチャブリー県やチュンボーン県でホエールウォッチングのツアーなどが催行されています。

タイの天然資源環境省海洋沿岸資源局の情報・データによると、タイで観測されたクジラとイルカの種数は、27 種類あります。また、タイに生息するニタリクジラの数、61 頭います（同省同局の 2010 年～2017 年の調査データ）。

前述の通り、アンダマン海とタイ湾でニタリクジラに生息していますが、年中クジラたちに会えるスポットもあります。それは、タイ湾の上部に位置するサムットサーコーン県、サムットソクラーム県、ペチャブリー県などです（下の左の画像を参照）。これらの県には、ホエールウォッチングツアーのサービスを提供している業者も数多くあります。クジラを見るには、岸から約 15～30 キロメートル離れたスポットまで船での移動が必要です。

バンコクに近くクジラを見られる観光スポット



画像の出典：カプック（Kapook）というニュースやトラベルに関する情報を提供しているタイウェブメディアおよび Google map より

ホエールウォッチングツアーの料金

クジラを見るには、事前にボートの予約が必要です。ボートの料金は異なりますが、乗り合いの場合、一人当たり 1,200～2,000 バーツで、貸し切る場合には、一隻当たり 5,000～20,000 になります。また、ホエールウォッチングツアーの所要時間は 6～8 時間程度で、船内ではランチや飲料が提供されています。

ニタリクジラウォッチングのベストシーズン

ニタリクジラウォッチングは、4 月から 12 月まで見られますが、4 月～9 月はタイの気候が変わりやすい時期なので、ベストシーズンは 10 月～12 月です。

最後に

ホエールウォッチングは、クジラが姿を現すまで何時間待つ可能性があります、その分出会えたときの感動も大きいと思います。少しでもクジラと出会える可能性が上がるので、10月から12月のベストシーズンに行くことを強くおすすめします。多くのホエールウォッチングツアーの運営会社は、初日にクジラに出会えなかった場合も、一回だけ追加でツアーに参加できるサービスを提供していますので、チャンスは一度ではありません。

バンコクから日帰りで行ける、けれども日常から離れた体験のできる観光地なので、機会があれば是非一度訪れてみてはいかがでしょうか。

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。

サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。

関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください

担当：柴田 隼介 Shunsuke Shibata

Address: 1 VASU1 Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25,
Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

▶ タイ経済指標

項目	単位	2022	2023	2024	2025
GDP 成長率	前年比ベ (%)	2.7	1.9	2.6	2.6 (2024 年)
人口*	千人	69,922	70,104	70,269	70,269 (2024 年)
労働者の数*	千人	40,143	40,674	40,356	40,356 (2024 年)
失業率**	%	1.32	0.98	1.00	1.00 (2024 年)
最低賃金* バンコク	バーツ/日	353	353	363	372
チョンブリー		354	354	361	400
アユタヤー		343	343	350	357
ラヨン		354	354	361	400
賃金：全国製造業の平均	バーツ	14,305	14,416	14,394	14,394 (2024 年)
インフレ率**	前年比ベ (%)	6.08	1.23	0.4	1.2 (2 月)
中央銀行政策金利*	%	1.25	2.50	2.25	2.00 (2 月)
普通貯金率**	%	0.28	0.40	0.39	0.28 (2 月)
ローン金利 (MLR) **	%	5.50	6.83	7.14	7.03 (2 月)
SET 指数*	1975 年 : 100	1,668.66	1,415.85	1,400.21	1,203.72 (2 月)
バーツ/100 円**	バーツ	26.78	24.82	23.33	22.08 (2 月)
バーツ/米ドル**	バーツ	35.06	34.80	35.29	34.02 (2 月)
円/米ドル**	円	131.38	144.07	153.72	151.96 (2 月)
車販売台数 (1 月からの累計)	台数	856,057	702,921	559,255	559,255 (2024 年)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,554	2,383	2,953	2,953 (2024 年)
BOI 認可プロジェクト金額	10 億バーツ	618.62	750.12	973.14	973.14 (2024 年)

*期末、**平均